

# 自治体における婚活支援の研究及び藤枝市ならではの婚活事業の企画

常葉大学造形学部村井研究室

指導教員：准教授 村井貴

参加学生：菊原緋世理、櫻井美吹、左座彩香  
佐藤葵、柴田真言、鈴木菜摘  
須田健史、高島貴美子、種石汐里  
永田花梨、萩間千尋、橋本優月  
水口梨々菜、森田真凜、山本玲音

## 1 要約

日本では1995年以降、出生率が1.5未満という低水準が続いている。その主な原因は経済停滞と子育ての高コストであり、若年層の結婚・出産への消極的な姿勢が少子化を加速させている。2020年の国勢調査では、生涯未婚率が男性28.3%、女性17.8%に達しており、この傾向は今後も続くことが予想される。この問題に対応するため、自治体では低コストの婚活サービスが普及している。静岡県では2022年に「ふじのくに出会いサポートセンター」を開設し、多様な婚活イベントを提供している。しかし、自治体による婚活支援は民間企業に比べて歴史が浅く、改善の余地がある。そこで本研究では静岡県の婚活支援の現状についてリサーチを行い、改善案を提案することを目的とした。研究対象は藤枝市主催の婚活イベントである。藤枝市では年間8回の婚活イベントが開催されている。研究メンバーは各回にサポートスタッフとして参加し、エスノグラフィの手法で改善案の検討やアイスブレイクの実践を行った。

## 2 研究の目的

少子化は特に先進国において進行著しい社会課題である。日本の出生率は1995年以降1.5未満の状態が続いており、コロナ禍を経て、よりいっそう深刻化しつつある。理由として、失われた30年と呼ばれる経済の長期間の停滞が挙げられる。子どもを大学卒業まで養育するのに約3,000万円の資金が必要であるという試算があり、長く続く不況下では少子化が改善される見通しが立たない状況である。加えて、経済的に余裕のない若年層は交際や結婚を躊躇する傾向にある。2020年の国勢調査によって示された生涯未婚率（50歳時未婚率）は男性28.3%、女性17.8%となっており、この数字は今後ますます伸びていくものと予想される。

このような背景の中、全国の自治体においてリーズナブルな費用で参加できる婚活サービスが広まり始めている。2022年、静岡県はふじのくに出会いサポートセンターを開設し、民間企業が提供している婚活サービスに準じた支援が低額で受けられるようにした。また、県内の自治体ではセンターのアドバイスを受けながら、多様な婚活イベントが実施されるようになった。

厚生労働省の推計によると、2050年の静岡県の人口は282万人になるといわれており、2023年時点の人口363万人から大幅に減少する見通しである。この減少幅を緩和するにはさまざまな課題解決のアプローチが必要であり、婚活支援も重要な取り組みの一つといえる。しかしながら、民間企業に比べて婚活支援の歴史が浅い自治体は経験が十分ではない状況であり、改善の余地があると考えられる。

以上を踏まえ、本研究ではコミュニケーションデザインを専門とする村井研究室が静岡県の婚活支援の現状についてリサーチを行い、運営のサポートをしながら改善案を提案することを目的とする。

## 3 研究の内容

本研究を進めるにあたり、藤枝市と連携することにした。藤枝市は令和5年度の取り組みとして、年間4回の婚活イベントを計画していた。藤枝市の場合、運営スタッフは3名～5名程度、参加者は男性10名、女性10名を基本セットとし、JR藤枝駅から徒歩5分の立地にある藤枝BiViのセミナールーム及びABCクッキングを開催場所として定めていた。

イベントは休日の午後を中心に企画され、大まかな流れとして、①アイスブレイク→②個別トーク→③クッキング→④フリートーク→⑤マッチングという構成であった。回によってはコミュニケーションやメイクに関するセミナーが開催されたり、いちご狩りツアーに出かけたりす

ることがあったが、基本軸は①～⑤の構成であった。

村井研究室メンバーは各回にサポートスタッフとして加わり、エスノグラフィ（行動観察）の手法でアプローチし、改善案の検討を行うこととなった。加えて、静岡県婚活支援の状況を把握するために、ふじのくに出会いサポートセンタースタッフとオンライン座談会で意見交換を行った。

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

ふじのくに出会いサポートセンターの利用者有志にアンケート調査を行い、現在の悩みからサービスの改善点を探る。その上で、藤枝市の利用者有志を募り、参加者同士でこうなったらいいな、あんなだったらいいなという具体的な改善点を対話しながら見つけるワークショップを実施する。加えて、その改善点を反映した藤枝市ならではの婚活イベントを実施する。

#### ・実施時期

2023年9月～2024年1月

#### ・期待される成果

アンケート調査やワークショップを通じて、藤枝市で婚活をしている市民のニーズを汲み取り、それを藤枝市に提言することができる。加えて、市民のニーズを反映した婚活イベントを実施することで、成婚数向上の成果が期待できる。

### (2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

2023年7月28日（金）に、受け入れ先である藤枝市企画創生部広域連携課と指導教員によるキックオフミーティングを行い、当初の計画を一部修正（B）の上、本研究を進めることとなった。以下は実施した内容である。

- [1] 婚活クッキングin Fujieda／日時：9月24日（日）／場所：藤枝BiVi  
⇒指導教員が視察を行い、婚活イベントの全体の流れを把握。
- [2] 婚活クッキングin Fujieda／日時：10月14日（土）／場所：藤枝BiVi  
⇒Aグループの学生5名（菊原、櫻井、鈴木、高島、永田）が運営スタッフのサポートをしながら、全体の流れを把握。Aグループは12月10日（日）のイベントで再び訪問し、新しく考えたアイスブレイクを参加者に向けて披露することとなった。
- [3] 婚活セミナー&クッキングin Fujieda／日時：11月19日（日）／場所：藤枝BiVi  
⇒Bグループの学生5名（柴田、種石、橋本、水口、森田）が運営スタッフのサポートをしながら、婚活イベントの改善案を検討した。
- [4] 謎解き婚活イベント ～男女のチームでクリアを目指せ～／日時：11月26日（日）／場所：伊豆市役所中伊豆支所  
⇒藤枝市以外の自治体の婚活事情を調査するために、指導教員が伊豆市主催の婚活イベントの視察を行い、伊豆市役所の職員と意見交換をした。
- [5] 婚活クッキングin Fujieda／日時：12月10日（日）／場所：藤枝BiVi  
⇒Aグループの学生5名（菊原、櫻井、鈴木、高島、永田）が10月14日（土）の回で得た知見を踏まえて考案したアイスブレイク「○○といえば？～価値観合わせゲーム～」を実施。加えて、運営のサポートを行った。
- [6] ふじのくに出会いサポートセンターとのオンライン座談会／日時：12月11日（月）  
静岡県の婚活の現状と課題を把握するために、ふじのくに出会いサポートセンターのスタッフ3名と学生15名と指導教員によるオンライン座談会を実施。

[7] 婚活クッキング&いちご狩りツアー in Fujieda / 日時：1月21日（日） / 場所：藤枝B iVi

⇒Cグループの学生5名（左座、佐藤、須田、萩間、山本）が運営スタッフのサポートをしながら、婚活イベントの改善案を検討した。

### (3) 実績・成果と課題

学生がサポート役として関わった(2)の[2][3][5][7]の内、[2]は4組、[3]は3組、[5]は4組、[7]は4組のマッチングが成立した。また、[3]と[7]においては運営上の改善点を検討し、[5]においてはアイスブレイク（図1、2）を参加者に対して披露する機会を得ることができた。課題点としては、研究室としての関わりがスポット的な役割に留まることが多かったことが挙げられる。当初の計画通りに進まなかったことも課題点に影響しているように思われるが、採択前に検討した内容であり、採択後に受け入れ先との意見交換の中で修正が入ることは致し方ないことであった。



図1 アイスブレイクの現場リハーサル



図2 アイスブレイクのスライド

### (4) 今後の改善点や対策

初年度ということもあり、手探りの状況で進めることが多かったが、大過なく研究を終えることができた。一方で、企画づくりからたずさわったとは言い難く、この点は改善の余地があるように感じる。2024年度以降、継続的な課題として取り組む機会があるようであれば、今年度に得られた知見を踏まえて、取り組む所存である。

## 5 課題提出者・地域への提言

本研究への多大なご協力に心より感謝申し上げます。藤枝市を事例として、静岡県全体が婚活支援に積極的であることが明らかになりました。比較的リーズナブルな価格設定と自治体ならではの信頼性で今後もこういった取り組みは拡大していくものと予想しますが、一方で利用者数と成婚者数に伸び代があるように感じました。婚活イベントの現場で運営スタッフと意見交換をすると、女性の集客に課題を抱えているようでした。そこで、「女性に対するPR方法の検討」を提言します。静岡県の若年層、特に女性の県外流出がメディアで報じられており、これが女性集客の困難さの一要因と考えられます。一方で、認定NPO法人「ふるさと回帰支援センター」の調査では、移住希望地として静岡県の人気があることが分かっています。以上を踏まえると、他県に住む移住希望の女性をターゲットにした積極的なPR活動が有効と思われます。また、他県に住む場合は藤枝市までの距離が障壁となるため、ZOOMなどを活用したオンライン婚活イベントの開催を検討するのも有効策になり得るのではないのでしょうか。オンライン婚活イベントは対面ならではの緊張感を和らげる効果が期待でき、従来の対面型婚活イベントに抵抗がある県内在住の女性にもPRできる可能性があると考えます。

## 6 課題提出者・地域からの評価

本市の婚活事業に関する研究・提言をいただき誠にありがとうございます。

今回学生の皆さんには運営側としての準備や運営補助、アイスブレイクの企画運営だけでなく、実際に参加者の輪の中に入って参加者とコミュニケーションを取っていただきました。ターゲット年齢層に近い学生の皆さん視点での企画提案は、担当者では気づき得ない視点等が多くあり、本市にとって大変貴重な機会となりました。1年を通してイベント毎に企画内容のアップデートができたのも、学生の皆さんのご協力があったからこそと思

います。

ご提言にありましたとおり、婚活事業での女性の集客は大きな課題となっております。本市のイベントでは「婚活イベントに初めて来た」「試しに来てみた」といった女性の参加者からのお声が多くあり、“結婚したいと思っているけれどまだ婚活をしていない”層に向けたPRに力を入れることで、利用者数・成婚者数を底上げできるのではないかと考えております。ターゲット層に向けた広報の検討をするとともに、参加者が「しずおかマリッジに登録してみよう」と思えるイベントにするために、学生の皆さんからいただいたご意見・ご提案をイベントの内容の充実に役立てて参ります。